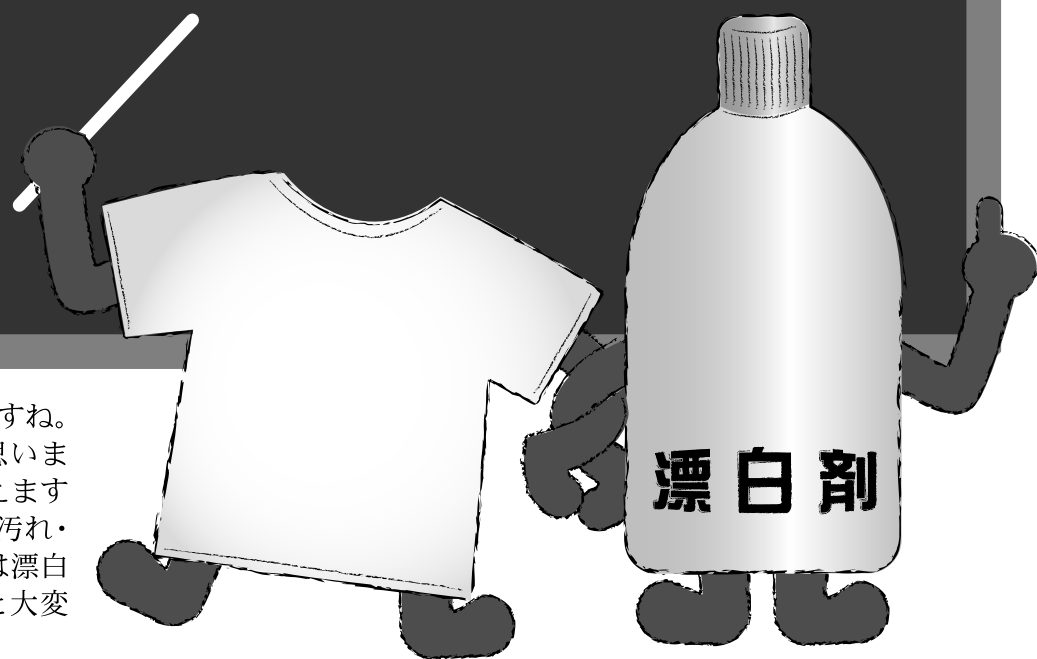


「クリーニングドクターの豆知識」その3

漂白剤とのつきあいかた

9月とはいえ、宮崎はまだ夏ですね。綿の衣類が大活躍していることと思います。綿製品はほとんどが家庭で洗えますが、普通に洗うだけでは落ちない汚れ・シミも当然あります。こんなときは漂白剤とのつきあい方を知っておくと大変便利です。



①漂白剤は大まかに2種類

家庭用として市販されているものは、「塩素系漂白剤」と「酸素系漂白剤」があります。商品名ですと、塩素系がキッチンハイター、酸素系がワイドハイターと言えわかりやすいと思います。塩素系は布巾・まな板の除菌、湯のみなどの茶渋を取るのが目的で、衣類には使うべきではありません。酸素系は白物だけでなく、色柄物の衣類にも使える便利なものです。これから先は酸素系漂白剤について説明します。

②使って良い繊維・使えない繊維

基本的には綿と化繊(ポリエステル・ナイロン等)のみで使用した方がいいでしょう。説明書には「ウールにも使用可」と書いてありますが、ウールの漂白は我々専門店でも大変難易度の高い技術です。失敗すると色がムラになったり、繊維が脆くなったりします。私は全くオススメできません。では麻はどうでしょうか？麻はその性質上、他の繊維と比べて染めが弱い(定着性が悪い)のです。漂白剤などを使うと一発で色が抜けることがあります。私もコレで失敗したことが2、3度あります。もし家庭でウールや麻を漂白する場合は、捨てるでもいいくらいの気持ちでやることです。

③クリーニング店と家庭洗濯では何が違う？

家庭では洗濯機に洗剤と一緒に投入するか、バケツに一晚漬け込むというのが一般的だと思います。でも実は漂白剤というのは温度が高ければ高いほど、その効果を発揮します。例えば当店ではワイシャツを洗う際は60℃まで水温を上げます。ほとんど熱湯ですね。これくらいでないとシャツの衿アカは落ちないのです。ただこれは家庭ではムリな方法ですし、第一どの繊維は何度まで温度を上げて大丈夫かなんて事は一般人には到底わかりません。本当に大切なものは最初から業者に任せたほうがよいでしょう。

④漂白剤を使っはいけない場合

赤いシャツと白いTシャツを一緒に洗ったらピンクになった…そういう経験ありますか？色が移った(これを移染と言う)際に、皆さんよく漂白剤を使ってしまいます。そして全く落ちないので当店に持って見えます。覚えておいて欲しいのは、漂白剤は『汚れやシミ』を分解することは出来ますが、『色』は分解できないという事です。漂白剤で色が落とせるのなら、ブルージーンズを漂白すればホワイトジーンズが出来上がることになります。でもそんな事はあり得ませんね。移染品は当店では8割くらいの確率で落とすことができますが、それは自己流の処置をしていない場合の話です。自宅で漂白した後に当店に持ち込まれても、落ちる確率はぐっと低くなります。『色』を落とすのは全く違う技術が必要なのです。③でも述べましたが、ダメになっても諦めがつく衣類は自宅で色々と挑戦してもよいでしょう。でもそれがあなたの「大切な服」なら、うまくプロの業者を活用してください。当店はきっとそのお役に立ちます。